

# 保険・年金 フォーカス

## 米国・日本・欧州における外資系 生命保険会社のプレゼンス —最近の日米欧間の生命保険会社の 相互市場参入はどんな状況にあるのか—

保険研究部 研究理事 中村 亮一

TEL: (03)3512-1777 E-mail: [nryoichi@nli-research.co.jp](mailto:nryoichi@nli-research.co.jp)

### 1—はじめに

日本の生命保険会社による海外保険市場への進出については、生命保険事業の特性(社会保障制度との関係、国民性、経済発展状況との関連性等)等から、欧米の保険グループや日本の損害保険会社に比べると、積極的とは言えない状況にあり、各社はむしろ、国内市場の深耕開拓に注力してきた。ところが、縮小傾向にある国内保険市場での競争激化に伴う収益減少懸念への対応や新興国の成長性の取り込みといった観点から、大手の生命保険会社も 2010 年前後から、改めて積極的に海外進出を展開してきている。

今回のレポートでは、米国・日本・欧州の生命保険市場における外資系生命保険会社<sup>1</sup>のプレゼンスがどうなっているのかを報告する。各種のデータ面での制約はあるが、これらを通じて、日米欧間の生命保険会社の相互市場参入がどの程度進展した状況にあるのかについて報告する。

### 2—米国における外資系生命保険会社のプレゼンス

#### 1 | 全体の状況

米国全体の生命保険会社の会社数は、合併や買収等の影響により、1997 年から 2022 年の 25 年間、ほぼ毎年減少してきているが、外資系生命保険会社の会社数は、増減を繰り返してきており、この 15 年間はほぼ横ばいとなっている。一方で、総資産は米国全体及び外資系生命保険会社とも着実に増加してきている。この結果として、外資系生命保険会社の構成比は、会社数では増加傾向にあるが、総資産については 2 割程度でほぼ横ばいで推移している。

即ち、市場の規模拡大に対応する形で業績を伸ばしてきてはいるが、総資産ベースでは米国国内の保険会社のシェアを大きく奪う形にはなっていない。市場の特性等を踏まえた上での独自のあるいは適正な戦略を立てていかないと、保険先進国の米国においては、外資系といえどもシェアを伸ばすのは容易ではない状況にある。

<sup>1</sup> ここで、外資系保険会社とは、株式の 50%超が外国資本の会社を意味している。

米国における外資系生命保険会社の状況（会社数）

	1997年	2002年	2007年	2012年	2017年	2022年	増加率	
							2012/2002	2022/2012
生命保険会社	1,476	1,171	1,009	868	781	727	-25.9%	-16.2%
外資系生命保険会社	101	132	101	99	107	102	-25.0%	3.0%
構成比	6.8%	11.3%	10.0%	11.4%	13.7%	14.0%	-	-

※ ACLI（米国生命保険協会）の「Life Insurance Fact Book」による。

なお、2022 年末において、会社数でみた構成比は 14.0%だが、総資産では 20.2%であることから、外資系生命保険会社の平均資産規模は全体平均の 1.5 倍程度となっている。具体的には、2022 年度の平均資産規模は、米国全体の生命保険会社では 11,382 百万ドル、外資系生命保険会社では 16,422 百万ドルとなっている。

米国の生命保険会社は、州毎や事業種類毎に複数の保険会社を設立して事業展開していることもあり、平均資産規模を個別会社単位で見ると必ずしも大きなものとはなっていないものと想定される。一方で、外資系保険会社が米国生命保険会社を買収する場合には、基本的には収益性や将来性が見込める一定規模以上の会社を対象としていることが考えられることも資産規模の格差に影響しているものと想定される。

米国における外資系生命保険会社の状況（総資産）

（単位：百万ドル）

	2002年	2007年	2012年	2017年	2022年	年平均増加率	
						2012/2002	2022/2012
生命保険会社	3,380,000	5,092,000	5,777,420	7,183,372	8,274,918	11.3%	3.7%
外資系生命保険会社	674,560	1,167,757	1,282,158	1,584,066	1,675,006	13.7%	2.7%
構成比	19.7%	22.9%	22.2%	22.1%	20.2%	-	-

※ ACLI（米国生命保険協会）の「Life Insurance Fact Book」による。

2 | 親会社国別の状況

以上の状況を親会社国別に見てみると、次ページの図表の通りとなっている。

会社数では、バミューダがキャプティブ設立の影響等でここ 10~15 年間で大幅に増加しており、ケイマン諸島の会社数も増加している。一方で、オランダと英国は大きく減少している。なお、日本の会社数も大きく増加して、2022 年には 15 社となり、カナダ、バミューダに次ぐ第 3 位となっている<sup>2</sup>。

総資産での構成比の推移についても、基本的には会社数の変化を反映した形になっている。2012 年から 2022 年の 10 年間では、バミューダが 5.1%ポイント、日本が 2.3%ポイント増加している。一方で、オランダは 4.1%ポイント、英国とフランスはそれぞれ 2.8%ポイント低下しており、欧州保険会社の地域別や事業別の展開に関する戦略等を反映した形になっている。

なお、オランダとドイツの会社数は多くはないものの、総資産の構成比では 2%台で日本とほぼ同じ水準と

<sup>2</sup> 日本の大手生命保険会社の海外進出の状況や日本市場への外資系会社や外国会社の進出状況に関しては、拙著「必携 生命保険ハンドブック」（中央経済社 2022）においても説明しているので、こちらも参照していただきたい。

なっている。

米国における外資系生命保険会社の親会社国別分布（会社数）

親会社国	2002年	2007年	2012年	2017年	2022年	増加数	
						2012/2002	2022/2012
カナダ	24	26	25	27	25	1	0
バミューダ	3	3	9	15	24	6	15
日本	3	3	5	15	15	2	10
スイス	15	13	13	14	10	-2	-3
ケイマン諸島	N.A.	6	4	11	9	N.A.	5
英国	12	12	8	5	7	-4	-1
ドイツ	7	5	8	5	5	1	-3
フランス	8	13	8	8	3	0	-5
オランダ	32	13	13	4	2	-19	-11
その他	28	7	10	14	11	-18	1
合計	132	101	99	107	102	-33	3

※ ACLI（米国生命保険協会）の「Life Insurance Fact Book」による。なお、報告基準の変更等により、過去年度の数値が事後的に修正されている場合があるが、ここでは入手可能な最新の公表数値に基づいている。なお、例えばオランダとベルギーとの複数国資本企業については、2002年では「その他」に含まれている。

米国における外資系生命保険会社の親会社国別分布（総資産）

親会社国	2002年	2007年	2012年	2017年	2022年	増加幅（ポイント）	
						2012/2002	2022/2012
カナダ	3.9%	9.9%	6.5%	6.7%	6.0%	2.6%	-0.5%
バミューダ	0.0%	0.0%	0.3%	2.4%	5.4%	0.3%	5.1%
日本	0.0%	0.0%	0.1%	2.4%	2.5%	0.1%	2.3%
オランダ	8.2%	11.6%	6.4%	3.8%	2.4%	-1.8%	-4.1%
ドイツ	0.8%	2.3%	1.9%	2.8%	2.3%	1.1%	0.5%
英国	1.9%	4.0%	3.4%	4.3%	0.6%	1.5%	-2.8%
スイス	1.5%	1.7%	0.7%	0.7%	0.5%	-0.9%	-0.2%
フランス	2.5%	4.9%	2.8%	3.5%	0.0%	0.3%	-2.8%
その他	1.1%	0.2%	0.1%	0.9%	0.5%	-1.0%	0.4%
合計	19.7%	22.9%	22.2%	22.1%	20.2%	2.5%	-2.0%

※ ACLI（米国生命保険協会）の「Life Insurance Fact Book」による。

### 3 | 個別会社・グループの状況

2では親会社国別の分布を見たが、実際には、各国を代表するグローバルに活動している大手保険グループの米国事業の状況が大きく分布に反映される形になっている。

AM Best 社が公表している認容資産ランキングによれば、2022年には、トップ25のうち、John Hancock Life insurance Group（親会社はカナダ（の Manulife Financial Life Group）、以後同様）が第10位、Aegon USA Group（オランダ）が第15位、Athene US Life Group（バミューダ）<sup>3</sup>が第

<sup>3</sup> Athene については、保険年金フォーカス「[IAIGsの指定の公表に関する最近の状況 \(8\)](#) -3 社が新たに追加されて、

16位、Great-West Life Group（カナダ）が第18位、Allianz Life Group（ドイツ）が第19位、Protective Life Group（日本）が第25位となっており、6社がランクインしている。

一方で、10年前の2012年においては、トップ25のうち、Manulife Financial Life Group（カナダ）が第3位、ING USA Life Group（オランダ）が第10位、Aegon USA Group（オランダ）が第11位、Axa Financial Groupが第13位、Jackson National Group（英国）が第14位、Allianz Life Group（ドイツ）が第20位、Sun Life Financial Group（カナダ）が第23位となっており、7社がランクインしていた。

このように、外資系生命保険会社のランキングは、過去10年間をみても、大きく変動している。2012年にはトップ25の圏外であったAthene US Life Group（バミューダ）、Great-West Life Group（カナダ）、Protective Life Group（日本）の3社が新たにランクインしている一方で、ING USA Life Group（オランダ）（→2013年にVoya Financial Groupにリブランディングし、その後2018年に年金事業の大部分を新しく設立した独立会社Venerable Holdings, Inc.に売却）、Sun Life Financial Group（カナダ）がランキング外となっている。また、AXAはEquitableを売却し、米国の生命保険事業から撤退している（なお、Equitable Life Groupは、2022年のランキングで第11位となっている）。Jackson National Groupについては、以前は英国Prudentialの子会社であったが、2021年9月の会社分割及びその後のJackson Nationalによる株式買収等により、2022年末現在のPrudentialの持分は9.2%となっており、現在は米国の会社となっている。

このように、米国市場においては、会社の合併・買収や事業の再編・売却等によって、認容資産で見た場合の外資系生命保険会社・グループのランキングはかなり大きく変動している。

### 3—日本における外資系生命保険会社のプレゼンス

#### 1 | 全体の状況

日本における外国及び外資系生命保険会社のプレゼンスを考える上では、支店形式の外国生命保険会社の位置付けが高いため、以下の表ではこれらの会社も外資系生命保険会社に含める形で取り扱っている。また、日本の場合、そもそも会社数が少ないので、外資系生命保険会社といってもより特定しやすくなるが、比較のため米国と同様の方式でデータをまとめている<sup>4</sup>。

日本市場における外資系生命保険会社の数や構成比は、1990年代までは支店形式による保険会社を含めてもそれほど多くなく、また高いものでもなかったが、2000年代前半に経営破綻した会社の買収等により、急速にその数を増やし、構成比を高めていた。その後も銀行窓口販売の解禁等の代理店チャネルの規制緩和等により、構成比を伸ばしてきていた。ただし、2022年までの10年間において、外資系生命保険の会社数は減少し、また総資産の構成比も若干は増加したもののほぼ横ばいとなっている。

[IAIGsは55社に—](#)（2023.11.7）の中で、Athora Holding Ltd.のIAIG指定に関連して、若干の説明を行っている。

<sup>4</sup> 以下の表においては、対象年度における資本状況等を勘案しつつ、例えば以下のように取り扱っている。①ソニーライフ・エイゴン生命については、Aegonの50%出資会社であるが、外資系会社を含めている。②PCA生命（2015年からはSBI生命）については、英国Prudentialの子会社としている。

日本における外資系生命保険会社の状況(会社数)

	2002年	2012年	2022年	増加数	
				2012/2002	2022/2012
生命保険会社	42	43	42	1	-1
外資系生命保険会社	17	17	14	0	-3
構成比	40.5%	39.5%	33.3%	-	-

※「Insurance 生命保険統計号」のデータに基づく。  
 外資系生命保険会社には、支店形式の外国会社も含めている(以下、同様)。  
 また、全ての年度にかんぽ生命(簡易生命保険)を加えている(以下、同様)。

日本における外資系生命保険会社の状況(総資産)

(単位:億円)

	2002年	2012年	2022年	増加率		年平均増加率	
				2012/2002	2022/2012	2012/2002	2022/2012
生命保険会社	3,039,223	3,449,981	4,068,157	13.5%	17.9%	2.6%	1.7%
外資系生命保険会社	208,657	485,348	600,896	132.6%	23.8%	18.4%	2.2%
構成比	6.9%	14.1%	14.8%	-	-	-	-
構成比(かんぽ除き)	11.6%	19.1%	17.5%	-	-	-	-

※「Insurance 生命保険統計号」のデータに基づく。  
 なお、かんぽ生命(簡易生命保険)の2002年の総資産としては、資金運用合計額を使用している。

2 | 親会社国別の状況

日本市場ではこれまでのところ、第三分野保険市場における過去からの経緯等もあり、総資産で見れば、米国の生命保険会社が引き続き外資系生命保険会社の7割超という極めて高いシェアを有している。

日本における外資系生命保険会社の親会社国別分布(会社数)

親会社国	2002年	2012年	2022年	増加数	
				2012/2002	2022/2012
米国	8	7	5	-1	-2
フランス	3	4	4	1	0
オランダ	1	2	1	1	-1
カナダ	1	1	1	0	0
ドイツ	0	1	1	1	0
英国	1	1	0	0	-1
スイス	2	1	1	-1	0
スウェーデン	1	0	0	-1	0
香港	0	0	1	0	1
合計	17	17	14	0	-3

※「Insurance 生命保険統計号」のデータに基づく。

日本における外資系生命保険会社の親会社国別分布(総資産)

親会社国	2002年	2012年	2022年	増加幅(ポイント)	
				2012/2002	2022/2012
米国	5.0%	10.4%	11.3%	5.5%	0.9%
フランス	1.3%	1.9%	2.0%	0.6%	0.2%
オランダ	0.2%	1.0%	0.6%	0.8%	-0.4%
カナダ	0.3%	0.7%	0.5%	0.4%	-0.1%
ドイツ	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	-0.1%
英国	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
スイス	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
スウェーデン	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
香港	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%
合計	6.9%	14.1%	14.8%	7.2%	0.7%
(参考)かんぽ除き	11.6%	19.1%	17.5%	7.5%	-1.6%

※「Insurance 生命保険統計号」のデータに基づく。

## 4—欧州における外資系生命保険会社のプレゼンス

### 1 | 全体の状況

欧州における外資系生命保険会社のプレゼンスを見る上においては、米国や日本との関係では、欧州あるいは EU 全体での外資系あるいは EU 域外会社の状況を把握できればよいが、データが限定されていることから、ここでは取得可能なデータに基づいて報告する。

欧州主要国における外資系保険会社のプレゼンスを OECD (経済協力開発機構) のデータから見てみる。ここで、会社数は生命保険会社及び生損保兼営会社のみを対象にしているが、収入保険料は生命保険・損害保険等合算の数値となっている。

各国とも外国及び外資系保険会社の構成比が収入保険料で 2 割弱～3 割強程度あるが、ここでの外資系保険会社は、自国以外の欧州各国からの保険会社が殆どである。北米の大手保険会社等も、欧州各国に子会社を有して生命保険事業を展開してはいるが、各国における上位保険会社のシェア等から判断すると、今のところ生命保険市場においては大きなプレゼンスを有していない。

欧州主要国における外資系生命保険会社の状況(会社数)(2021年)

	ドイツ	フランス	イタリア	イタリア (生損保兼営)	スペイン	スペイン (生損保兼営)	英国	英国 (生損保兼営)
全体	81	52	40	30	27	68	69	37
国内保険会社	80	52	21	20	27	68	67	37
外資系	16	—	8	9	—	—	0	0
外国保険会社	1	—	19	10	—	—	2	0
外資系等構成比	21.0%	—	67.5%	63.3%	—	—	2.9%	0.0%

※ OECD 「Insurance Statistics 2022」による。フランスの値は2020年、その他の国の値は2021年。  
「外資系等」とは、外国及び外資系を指している(以下、同様)。

欧州主要国における外資系保険会社の状況(収入保険料(生保・損保等合算))(2021年) (単位: 百万ユーロ)

	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	英国
全体	335,423	306,494	142,441	64,658	217,731
国内保険会社	321,161	—	141,820	—	215,494
外資系	42,649	—	47,587	—	69,361
外国保険会社	14,262	—	621	—	2,237
外資系等構成比	17.0%	—	33.8%	—	32.9%

※ OECD 「Insurance Statistics 2022」による。

### 2 | 親会社国別の状況

親会社国別の状況については、データの制約上、ドイツの収入保険料ベースのみで見えてみる。ここでは、判明ベースの直近である 2020 年のデータに基づいて報告する。

ドイツでは、他の EU 諸国と同様、EU 及びスイス資本の生命保険会社が重要な位置付けを占めており、これらの会社の収入保険料は全体の 24.9% を占めている。

なお、次ページの図表数値はあくまでも、ドイツに設立された保険会社のみを対象とした数値であるが、これ以外に、2021 年度ベースで、ドイツで支店を設立している会社が 17 社 (EEA (欧州経

済地域)<sup>5</sup>から 16 社、それ以外の国から 1 社)、(EU のサービス提供の自由に基づいて) 外部からのサービス提供により、ドイツで保険契約を獲得している EEA からの保険会社が、生損保合計で 700 社程度存在している。こうした形での外国保険会社による収入保険料が、(直近公表ベースの) 202 年の生命保険で、3,997 百万ユーロ (収入保険料の 4.0%、その内訳：支店設立 2,427 百万ユーロ、外部からのサービス提供 1,570 百万ユーロ) となっている。

これらを合わせると、外国及び外資系生命保険会社が、収入保険料において 3 割弱程度のシェアを占めていることになる。

ドイツにおける外資系生命保険会社の状況(2020年) (単位:百万ユーロ)

	会社数	収入保険料	構成比
生命保険会社	81	103,211	100.0%
外資系生命保険会社	16	20,413	19.8%
イタリア	2	2,282	2.2%
フランス	2	3,326	3.2%
オランダ	2	652	0.6%
英国	1	27	0.0%
スイス	3	4,091	4.0%
その他	6	10,036	9.7%
構成比	19.8%	24.9%	

※ GDV(ドイツ保険協会)「Statistical Yearbook of German Insurance 2023」による。

## 5—まとめ

以上、米国、日本及びドイツを中心とする欧州における外資系生命保険会社のプレゼンスを見てきた。それぞれの国における過去からの経緯等もあり、外資系生命保険会社のプレゼンスの現状は異なっている。ただし、グローバル化の流れの中で、どの国においても外資系生命保険会社のプレゼンスは大きな意味合いを有するものとなってきている。

一方で、米国、日本、欧州という枠組みで考えると、以前から、米国市場では欧州保険グループが、日本市場では米国保険グループが大きなプレゼンスを有する形になってきていたが、日本の生命保険会社・グループは米国、欧州いずれの市場においても有意なプレゼンスを確保できていない状況にあった。ただし、2010 年代以降の一連の日本の大手生命保険会社による米国の生命保険会社買収等により、日本の米国市場におけるプレゼンスが一定程度の意味合いのあるものとなってきている。この流れが今後どのように変わっていくのかについて、中長期的な動向が気になるところである。

また、海外市場という意味では、今後はアジアや中南米等の市場の拡大が期待されており、これらの市場への対応がグループ全体の成長確保への鍵になるとも考えられている。今後はこうした市場も含めた保険会社の海外展開について注視していくこととしたい。

さらに、このレポートではあくまでも収入保険料や資産等の規模の面からのプレゼンスの状況を見てきたが、より重要なことは、投下した資本等に対応して高い収益を上げているのか否か、ということである。欧州大手保険グループの海外事業展開における収益状況等については、これまでの基礎研

<sup>5</sup> EU 加盟 28 カ国にスイスを除く EFTA 加盟国のアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェーを加えた 31 カ国

レポートで毎年報告してきている。そのレポートの中で報告してきたように、欧州大手保険グループはグローバルな市場において、積極的に買収等を行いつつも、一方で既存事業の再編や売却も行っている。

日米欧の保険グループの海外市場への事業展開については、大変興味深いテーマであることから、今後も定期的に注視していくこととしたい。

以 上